山岳クラブ／グーテンタータ（ドイツ語　こんにちは）

月　報　やまふみ

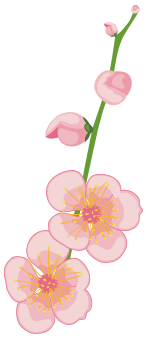
No.209　2013年平成25年3月3日発行山踏み

ブナの樹氷

会　　長　／T.M
事務局長　／K.T
ホームページ／http://guten-nagano.com/
編　　集　／ S.T　K.K　T.S
印　　刷　／ 中央プリント株式会社

もくじ

山行報告（12/14～2/17）・・・・・・・・・・・・・・・１～９
会費納入のお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・１０
山岳遭難・捜索の保険加入について・・・・・・・・１１
山行計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１～１３
各種変更届・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
来月担当者＆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・１４



★12月14日　　遠見　一の瀬髪村尾根　　新雪山スキー

CL　J.K　　E.K

五竜スキー場リフトトップ　9時ー1830m地点　10時ー　渡渉点　11時15分ー白馬 47 スキー場　2時

前の土曜日に行われた雪上訓練で山に大量のパウダーがあるとおもい、K原さんに相談したら快くOKしてもらい、今シーズンの初すべりができることになりました。

いつものように、眠気覚ましのコーヒーを飲みながらオリンピック道路から白馬の平野に差し掛かると白い平原に霧が立ち込め上空の青空とすばらしいコントラストを見せてくれてどうやら本日の天気は大あたりのようです。白馬 47 スキー場の駐車場に待っていてくれたK原さんと車1台をデポしてから五竜スキー場に移動し、ゴンドラ、リフトでスキー場トップまで上がったのが、9時近くになりました。素晴らしい晴天で歩き始めるとすぐに汗が噴き出してきますが、1時間位で 1830mの下降点に到着します。初すべりなのでそんなに歩かずともたくさんすべれれば問題ないと気分は上々です。K原さんに滑る斜面を教わるがさすがにまだ十分には小木まで埋まって無いので木をかわしながら尾根から離れずに雪の溜まっていそうなところを選んで滑って行きます。上部より中ほどから下のほうが木がすいていていい斜面で雪も柔らかでここちよく滑れました。もっと滑りたくなる良い雪といい斜面になった当たりが川に下りるポイントで、右側の尾根に移り川に下って行きます。いつもならここから堰堤の側壁をトラバースしていけるそうなのですが、まだ雪の付きが少なくて危ないのでやむなく渡渉することにしたが、川の雪の側壁は柔らかく川の水量はまだ多くてスキーブーツは水没しなければ渡れません。私はここで初転倒してしまい腰まで水没してしまいました。渡渉はまだ続きここで 3 回、スキー場前で1回あ

りました。濡れてしまうとスキーは凍るはシールは凍るでうまくいかず下りの林道は良く滑らないスキーでそろそろと下って行き白馬47スキー場に2時ごろ到着しました。

本日の核心部は実は帰りの渡渉だったようです。短いルートなので気にも留めていなかった渡渉に時間がかかり川に降りてから帰るまで3時間も掛かってしまいシーズン初めにいい雪を触るのに何が必要なのか気持ちを引き締めるには十分でした。大雪の直後にスキーに来られておそらく今シーズン誰もまだ滑っていない初めての雪面を自分達で独占できた幸せと、これから始まるスキーの忘れていることを思い出させてくれた山スキーの一日でした。

E.K 記

※近年にない早い降雪にK さんから熱いラブコールを貰い計画。山麓積雪量 100cm・アルプス平 185cm。
最下部はBUSHかもだけど、メインのブナ林下は大丈夫だろうと決行。　結果◎ ！
※二か所の急坂は直登せず右(北)側を巻くこと。坂上は平坦であり、エネルギーのロス回避となる。
※不整脈のため、ドロップポイントまで１時間かかってしまった。
※予想に反して今回先行者なし。今シーズン初トレース!
※1850m 直下北西斜面はBUSH 埋まらず滑降△　少雪時はコルまで尾根沿いに滑ること。
※1450m・1400m まで滑ったら右の尾根に乗り換えること。1350m 坂で左に下ればOK　ガス時要注意。
※1332m 独標にあるのは松ではなく檜。これからは『三本檜』と呼ぶことにする。
※この時期まだ気温高く水量も多め。スノーブリッジ無し。渡渉計４回。
※スノーシェード付近のスラッシュ雪崩はあるものの、大規模雪崩は皆無。
※ノントレースの林道は半分歩き。時間に余裕を見ること。
※車デポ地は左岸みそら野最奥地カーブ下が良い。
※今冬のような気温変化の激しい積雪不安定時は蛇紋岩帯である無木八方尾根からの大規模雪崩が怖い。むやみに入らない方がよい。

J.K 記

★1月20日（日）　大渚山スキー（個人山行）

L　S.T、SL　T.M、E.K、T.S

大草蓮発 8:23　ー　休憩 10:30　ー　山頂 11:30　～滑降～　1416m地点 12:00　ー　山頂 12:45
滑降開始 13:20　ー　大草蓮 14:10

7時白馬駅集合、Tさんの車で大草蓮へと向かう。この集落までの道路は、人が住んでいるので除雪はしてあるが、何度来ても険しくて、住んでいる人は大変だなあと感じる。それでも、今回は昨年来た時よりは積雪は少なめだ。白馬では晴れ間もあったが、こちらではしっかり降雪。過去2回は晴れていたが、今回はさすがにダメみたい。

準備をして歩きだす。林道から尾根へ。昨日のらしいトレースがあり、おかげで順調。でも、私が先頭になってみると、3～40センチほどの新雪でも意外に沈み、あえなくトップを交代。毎度のことながら戦力にならずスミマセン。。。TさんやMさんほどの体力がない身としては、Kさんの幅広のスキーが羨ましい。今シーズンはジャケットとスキー靴をいよいよ新調したので、スキー板は当分買換えは無理だしなあ。だいぶ上の方に来た辺りで、一人？滑り降りていった。トレースはこの人のだったのか？にしては随分新雪が深いケド？

山頂稜線に到着。登っている時は時々薄日がさしていたものの、上は風が冷たく、真っ白で視界が利かず。いつもは下山の斜面を2回滑ったりしていたが、今回は山頂の北西の尾根を滑ってみようということになり、山頂へ歩く。稜線は風で結構うねっていたけど、視界がないと雪面がわかりにくくて段差にビックリすることも。山

頂からはシールを外し、いざ、滑走！出だしはやや藪っぽかったものの、すぐに快適なブナ林となる。結構新雪が深くてはまり気味だけど、パウダーが軽くて気持ちいい～！150mほど下って、風がないので昼食にしてからシールをつけて登り返した。

先ほど登ってきた地点まで戻り、シールをまた外す。Mさんが弱層テストをすると、60cmほどの所に若干の層があったが、かなりの力で出てきたので大したものではないと判断。陽がないと雪面がわかりにくく、出だしの斜面は見た目より大したことなかったり、窪地だったり。いづれにしても深いので、とにかくハマらないよう、なるべく後傾になってスキーの先を浮かせて滑る。元々ヘタな私は、深雪の方が好き。急斜面でもスピードが出ないので割合恐れずに滑れるから。上部斜面はパフパフで気持ち良くパウダーを楽しんだものの、下部斜面になるほどやっぱり少しずつ重くなり、腿がパンパンに。途中の藪っぽい急斜面を抜けると緩くて広い斜面となり、深くて滑らないので先行のKさんやMさんのトレースを適当に使いながら林道、そして集落へ到着。

大渚山はまだまだ楽しめそうなバーンがありそうですね（今回スキーでは5回目）。

S 記

★1月26日（土）　大川入山

CL　K.T、　SL　T.K、H.Y、K.K、N.T、K.H、S.H

大川入山は恵那山の南東、中央アルプスの最南端にあたる山です。
今回は治部坂峠から横岳・大川入山と縦走してあららぎ高原スキー場に下山する予定のため、あららぎ高原スキー場に1台車をデポ。そのあと登山口の治部坂峠に向かいます。

この日は南信でも大雪。しんしんと雪の降るなか、スノーシューやわかんを取り出して準備を行い、出発です。登山道はうっすらとトレースが残っていましたが、スノーシューでも膝上ラッセル。スノーシューを外すと腰までもぐる新雪の中を途中交代しながら黙々とラッセルしていきます。

治部坂峠から2時間30分掛かって横岳に到着。ここから大川入山までは約3kmの道のり、往復4時間で帰ってきたとしても予定時間をオーバー、しかも新雪がどんどん積もっているためトレースがなくなる可能性もあります。展望もないので横岳から少し進んだところで、今日の撤退を決定！！

横岳の山頂で記念撮影して下山しました。

大川入山の山頂からは中央アルプスと南アルプスの展望があるということで、またリベンジします。
しかしこの日は久しぶりのスノーシューハイク＆ラッセルを楽しむことができました♪

H 記

★2月3日（日）　例会前山行　　明覚山

CL　K.T　SL　T.K　H.Y　N.T　S.H　K.K　K.H

天徳寺駐車場 → 坂田山 → 明 覚 山 → 坂田山 → 天徳寺駐車場
9:30　　11：00　12：00～12:25　　13:00　　13:45

私達参加者7名が天徳寺駐車場に集合した時は頭上から柔らかな日射しが降り注ぐ暖かい日になりました。昨日の雨のせいかフカフカの雪は、消え去りワカンを携帯して登山開始です。少し残念でした。天徳寺登山口は、住宅地に隣接しており、あの臥龍公園からも歩いて行ける位置にあります。
遊歩道の階段を右に折れ、松林の中に入ると、トレースの跡は固く凍結箇所があり急斜面を滑らない様注意深く登りました。林道出会いに辿り着くと、すっかり暑くなり体温調節のためアウターを脱ぎ一息、
それからまた、松林のジグザグ急登を登ります。息が上がる登山道に疲れを感じた頃、稜線に辿り着きほっとしました。ここからは、私の好きな稜線歩き、

この稜線は、いくつものアップダウンがありました。祠のある坂田山に到達すると眺望が開け善光寺平が一望できます。
坂田山から明覚山までの約1時間の稜線は魅力的でした。特に雪のあるこの時期は、やせ尾根の急斜面・岩ゴロの尾根は適度の緊張感があり、真剣になりました。葉の落ちた木立の間から北側に雁田山、南側には形の良い妙徳山、振り向くと最初の緑の松林のピークから緩やかに弧を描くように続く尾根、何だか自然に充実感に満ちてきました。

須坂市の東側にある標高 982mの明覚山は、アクセスが簡単でバリエーションに富み、気軽に楽しめる満足度の高い里山でした。たぶん、可愛いかもしかにも会えると思います。

H　記

★2月9日（土）～10日（日）　赤　岳（個人山行）

L　N.T　K.H　H.Y

9日：晴れ
10:50 美濃戸口～11:50 赤岳荘～14:30 赤岳鉱泉（幕営）

美濃戸口に着くと駐車場は既に満車状態、道路上に順番待ちの車が多数並んでいる。夏山のトップシーズン並みの混雑にビックリ。
係員から「四駆にチェーンを巻いて林道に入りますか？」と聞かれるが、チェーンが無いため「NO」と答えがあまりの混雑に駐車できるか不安になる。係員に四駆と伝えると駐車場入口にいた二駆の車の代わりに駐車できるようになった。ラッキー！

登山の準備をして出発。所々林道脇に登山者の車が駐車しているがチェーンを付けていない車も多い。赤岳山荘に着くと駐車場が満車状態になっていた。

林道で後続者が次々我々を追い抜いて行く。コースタイムのペースで歩いているのになぜ？八ヶ岳は、若い人が多いため中高年組より足が速いということで納得。

山小屋の従業員用駐車場を過ぎ本格的な登山道に入る。踏み跡がしっかりしており、ワカンやアイゼンを使用せず赤岳鉱泉に着く。大同心がよく見え、多くのテントが張られ、アイスキャンディでクライミングする人も多かった。

林の中の雪を均しテントを張る。リーダー以外は冬のテント張りは初めての経験、竹ペグの換わりのスーパー袋の使用方法や入口段差作り等を手伝う。時間があるため、ロープスリングの作り方を練習。夕食の支度もリーダー主体に進む。具沢山のホウトウに舌鼓を打ちながらアルコールも進んだが、20 時前に消灯。

10 日：晴れ

7:00 赤岳鉱泉～7:40 行者小屋～9:10 地蔵の頭～10:25 赤岳～11:05 中岳・阿弥陀岳分岐～11:50 行者小屋～12:30 赤岳鉱泉（撤収）～14:50 美濃戸山荘～15:50 美濃戸口

隣のテントから「靴を外に出して置いたのか？凍っているぞ。」の声が聞こえる。

4 時 30 分過ぎに起床し、シュラフ等の片付けをする。小屋泊者もテントに合流、コーヒー等を飲み、夕食同様リーダーが作ったゾウスイを 3 人で完食する。

必要品のみ入れたサブザックを背負ってアイゼンを付けて出発、昨日の疲れが残っているのか中山乗越迄の登りをきつく感じる。行者小屋にも多くのテントが張られている。

地蔵尾根を登るにつれて傾斜がきつくなるが、踏み跡がしっかりついているため比較的歩き易い。梯子場を過ぎて暫く登ると下山者から尾根の風が強いとの情報を得、中間着を一枚追加する。

森林限界を出て岩場を進むと「ラク！」の声、目の前にこぶし大の岩石がすべり落ちてきた。スピードが出ていなかったため難なきを得た。鎖場でロープスリング及びカラナビで安全確保をしようとするが、鎖が太くてカラナビをかけるのに苦労する。

やがて辛うじて一人が歩ける程度のナイフエッジの雪の稜線が現れる。リーダーの踏み跡をトレースして慎重に渡り地蔵の頭に着くと正面に富士山が見えた。緊張のしていたせいか、夏道より時間が短く感じる。稜線の風は強いものの体感的には、昨年末の雪訓や燕の時の半分程度に思う。

疲れたため赤岳展望荘でお汁粉（餅は別料金）を飲み暫く休む。8 日の赤岳展望荘の最高気温—14.5℃の表示有り。気合いを入れて頂上に向かうが餅を食べなかったせいか足が重い。頂上からは、富士山や南アルプスがくっきり見えた。

記念撮影後、夏岩場の花を愛でながら登った急な岩場をアイゼンの爪を引っかけないよう慎重に文三郎道の阿弥陀岳分岐まで下り、展望荘から見る赤岳とは異なる山容を見上げる。
暫く下ると梯子が連続する下り坂となるが多くは雪に埋もれて見えない。傾斜が緩くなり行者小屋に着いてやっと緊張が解けた。赤岳鉱泉に戻りテントを撤収し、3 人でカップヌードルを食べた後下山した。

PS:
夏山の単独テン泊の経験はあるが厳冬期のテン泊は初めて、寒さが想像できないため不安が大。
シュラフは羽毛量 450、280g の2個、マットはエアー注入式半身用、更にダウンジャケット、ダウンパンツ、象の足を準備。
就寝時、上半身はアンダー2 枚、中間着 2 枚の上にダウンジャケット、下半身はアンダー2 枚、冬用パンツの上にダウンパンツ、更に象の足。
アルコールの力によって寝付くが、暫くして暑くて目が覚める。ダウンジャケットを脱いで再び眠りに。気温低下を感じ午前 2 時頃再び目覚め。臀部と太ももの辺りが若干寒いが我慢できない程では無い。顔の部分のシュラフカバーを開けるとテント内部にできた霜の塊が顔にパラパラ落ちてきて冷たい。以後起床までウツラウツラ。
良い経験ができたが、厳冬期は小屋泊まりすることにする。

Y 記

★2月10日（月） 妙高／赤倉山肩 山スキー

L J.K SL K.K T.K T.S K.K

池の平スキー場 P（8：30） （リフト）ゲレンデトップ 林道カナメ 赤倉山肩（11：00） 林道 沢 スキー場 P（12：40）

朝8：30頃池の平スキー場に到着、リフトでゲレンデトップまで上がりそこから赤倉の肩を目指し登攀開始の予定。ゲレンデは連休の中日のせいでしょうかかなりの混み具合でリフトに乗るまでに少々時間がかかる。
ゲレンデトップからは廃止になったゲレンデ沿いに林道のカナメまで上がる。カナメからは赤倉温泉の源泉を引く谷や、対面に滝沢尾根などがよく見えます。カナメから稜線を上がり赤倉の肩を目指す。今回はピークは狙わず稜線のいい場所まで上がったところで滑走開始となる。前日に積雪があったようですが、量は程よくラッセルもさほどでもなく、順調に肩まで上がる。

肩から赤倉山を背に滑走を開始。林道の右側を抜け、ゲレンデの境となっている沢に向う、その後しばらく沢に沿ってゲレンデの右側の樹林帯を滑る。適当な場所で沢を渡りゲレンデにでる。今回の核心？はこの沢でしょうか。沢を渡るタイミングが少しわかりづらい（どこで渡ってもいいのでしょうけど、出来るだけゲレンデに出るのは遅くしたいですし。）、鋭く切れた沢なので渡りやすいポイントで渡らないとちょっと苦労する、感じでした。沢を渡ってゲレンデに出た後はゲレンデコース内を一気に駐車場まで下ります。

カタカナ 記

★2月10日（日） 焼山北面台地 山スキー（個人山行）

メンバー：T.K、S.T

行程:5:00 白馬駅 7:00 笹倉温泉発(410m)12:50 1550m 地点で終了 13:00 滑降開始 15:30 笹倉温泉着 18:30 白馬村役場

3 月計画の焼山を都合により中止した。代わりに 2 月厳冬期の焼山北面台地に立ちたいとの思いで計画、この時期まずそう人は入ってはいないだろうし、長いアプローチや豪雪時のラッセルも予想され、北面台地に果たしてたどり着けるものだろうかという物好きな計画に付き合ってくれたのは T さんでした。感謝。

7 時に笹倉温泉を出発するときは雪が降ったりやんだり、視界はやや不良。除雪最終地点の雪壁を這い上がって田圃の中をスタートする。間もなく途中から本日のものと思われるトレースが合流する。物好きがほかにもいたと喜ぶが、これによって後で痛い目に合うことに。雪は固い雪の上に昨日今日の新雪が載っており、それほどラッセルの負担はない。焼山は台地までのアプローチが長く、分かりにくい林道とアップダウンのある地形で、コース取りが悪いと時間を食う。1 時間半ほど経過したところでトレースは左に巻いており、通常は右から巻くピークを左から巻くように思え、林道も入っているしトレース沿いに左へ針路をとる。出発から 2 時間ほど経過したところで休憩を入れているところへ、二人連れ先行者が引き返してくるのが目に入った。空沢山へ行くつもりが火打山川の渡渉が出来ずに引き返してきたとのこと。地図で確認すると 3 つほどあるピークの一つ目と二つ目を間違えていたことが判明。ここで引き返すも 1 時間近く時間をロス。がっくりくる。

他にも複雑な地形にアップダウンを繰り返し、11:30 ようやく北面台地の末端にたどり着いた。残念ながら雪で見通しは悪く焼山は見えないがその広さは十分感じられる。ここからの風景は本当に素晴らしく、日本にこんなところがあるんだと初めて来たときは感動したものだが、逆にこういうときもある。厳冬期の北面台地に立てただけでも良しとしよう。設定していた時間切れまであと 1 時間半ほどしかないが、ここは気合を入れて再び歩き始める。12:50、ガスがかかりだしたこともあり急斜面手前の 1550m地点で行動終了。T さんは靴が足に合わずに、兼用靴を新調してからだいぶ苦労している様子。痛くて大変なんですよね。

さて、身支度を整え 13 時過ぎに滑降開始。雪面は白一色で凹凸が感じられず滑りにくいが、雪は底付きのするパウダーでまずまず。が、台地末端は緩斜面続きで直滑降が多くいまひとつ。おまけに、6 時間ろくに休まずに歩き続けたせいか、太ももがけいれんし始め、滑りも長持ちしない。途中、風雪でぼこぼこになった林道をシールを張って上ったり下ったりしながら、15:30 ようやく笹倉温泉に帰着した。たまには笹倉温泉にも入らなきゃいけないよね、などと言いつつ隣の焼山温泉で汗を流し、再び激しく雪の降り始めた温泉を後に帰途に就いた。

翌週、放山からの焼山

三井 記

★2月10日（日） 八丈富士・三原山（個人山行）

K.T

『やまふみ』3月号

8：58八丈富士登山口　9：42山頂　10：33浅間神社　11：44登山口
車で移動　12：34三原山登山口（無線中継所）　13：10三原山山頂　13：52登山口

八丈富士

一度登ってみたかったので、連休を利用して八丈島へ。羽田空港から八丈空港へ。前日は民宿の周りを散策。南国の雰囲気はあるけど、緯度的には九州の阿蘇と同じくらいなんだよね。だから、風は冷たい。

朝に軽のレンタカーで登山口をめざす。レンタカーは軽で１日3000円（ガソリン別）、登山口は八丈富士の 7 合目。下から登る道もあるけど、三原山もあるから、7 合目登山口から登ることにする。すでに車が何台かある。レンタカーばかり。

八丈富士の稜線から見た八丈小島

八丈島は風が強いのと火山のため、高い木はない。火口の稜線に出るまでは暑い。稜線は風があり寒い。うっすら雪が残っていたりする。風は強いが晴れているため、景色がすこぶる良い。大海原を眺め、火口の中には火口丘が密林と化している。稜線からの八丈小島の眺めなんか、風が無ければずっと眺めていたいくらいである。

火口を１週し、火口の中へ下る。火口の中には浅間神社がある。富士山だけに分家であると思われる。富士山を下り、八丈島のもう 1 つの山、三原山へと車を走らせる。登山口の 1 つである無線中継所に車を停め歩きはじめる。始めはコンクリートの階段であるが、途中から笹の中の登山道に変わる。稜線からの眺めもすばらしい。八丈富士と八丈小島が並んでツーショットのアングルである。富士山よりは風強くなく山頂でのんびり、ポカポカと休憩。眺めは飽きない。

三原山山頂

宿の食事の大間のマグロの刺身（厚い切身）、ムロアジのくさや、島寿司（金目鯛・飛魚）、採れたてのカツオと金目鯛の刺身など、海の幸をいただきました。

今回の核心は帰りの飛行機である。ここの空港は日本で 1 番欠航が多い。風が強いため、降りるのが難しいらしい。飛行機だめなら、船で帰ればいいよ。と島の人は慣れたもの。でも、朝に無線で船が欠航した。これは何が何でも飛行機に飛んでもらわないと。まぁ、無事に飛行機が飛んでくれました。

のんびりと楽しめた島の山旅となりました。また行きたいな。

Ｔ　記

★2月17日　鍋倉山スキー(個人山行)

L　J.K　SL　K.K　T.K　N.T　K.K

平青学園 6:30⇒温井 7:55→鍋倉山 11:00～11:30→温井 12:40～12:50⇒→湯滝♨⇒平青学園 15:00

一昨年から山頂直下のブナ林パウダーにハマり、P まで快適滑降を願って早期に計画。

１６日(土)が予定日だったが、集合したものの冬型気圧配置の降雪・強風・ガス・ラッセルを厭い、グーテン中高年パーティーは即１７日に延期。素晴らしい結束力!

翌 17 日は無風快晴、絶好のスキー日和!!! 温井には先着車数台。

出発を焦らずトレースを有り難く戴きましょう。(なんでこういうルートなの?)と首を傾げるが、文句は言えない、後を辿る。標高差 740m・2:30～3:00 の登行だ。背に朝日を受け、フリース・アウターを脱ぐ。700m 林道屈曲部から直接東尾根に取り付く予定だったが、トレースは右折し林道へ。(登山は体力温存・余裕を持って行わねば)という原則に乗っ取り、後を追う。

大崩落堆積台地を進み、850m 付近からトレースを辿って森太郎カール(崩壊凹地)北側の尾根に上がる中急斜面に取り付く。先行パーティーは高額高性能シール使用のためか、超急角度で登っている。貧しい我々は斜度を落として登る。ここで K さん、体力技術に劣るも口には自信のある先輩方から有り難い指導を受け引き抜きターンをマスター。　１年前に比べれば格段の進歩!　野沢上の平から七ケ巻へのツアーコースもよく見える。

尾根に上がってからは傾斜も緩み、前日の過冷却水により梢に純白の花を咲かせたブナに見とれながらの快適登行。やっぱ鍋倉はいいな～!

左手から予定ルートのブナ尾根が近づけば間もなく山頂着。おお、360°の大展望! 正面に妙高火打　大毛無左に続く北信五岳の峰々。海谷山塊　昼闇。長野盆地西縁断層系・活褶曲変動隆起帯の特徴ある地形が手に取るようによく見える。千曲川沿いの断層・褶曲隆起丘陵・関田山脈中の断層ケルンコルケルンバット・関田峠付近の重力性断層・大崩落地形等など。この時期ならでの眺望である。

記念撮影・昼食休憩後我々も本日のハイライト、パウダー滑降に突入。T・K は黒倉山との鞍部・カール底経由で、K・K・K は直降下。ほかほかのパウダーに突入。思うままにとはいかないものの、気持ち良く回転滑降。K さん、譲り受けたファットスキーで快調滑降。歓声も上がる。

カール底派と合流し、斜滑降～回転を繰り返し、登りにチェックしておいた最後のオープン大斜面に到着。今日の仕上げをと期待したバーンは……モービル輩によって無残にも荒れ尽くされていた!

雪山の楽しみ方は人其々とはいえ、静寂なる地にエンジン音を轟かせ、自力で歩き自然との一体感を求めて訪れた数多くのスキーヤーの期待を踏みにじる蛮行は許し難く思った。

力落とすも平坦面を歩滑走し、緩み始めた最後の斜面をひと下りして P に滑り下りた。道路には 20～30 台の県内外車。その中に憎きモービル運搬の車運搬専用車も…タイヤの空気抜いちゃえばよかったなぁ…悪魔の声(-_-メ)

帰路湯滝♨で汗を流し、長野に戻った。後味の悪さは残ったものの、最高の雪・天候・展望に恵まれた満足のいく山行であった。帰宅後缶ビールで喉を潤したのは言うまでもない。

K 記

＊ 編 集 後 記 ＊

この間『岳』の最終回を読んだ。やはり三歩は死に、物語は終了なのですね。しかし、エベレストのヒラリーステップを、酸素なし、救助のために 3 往復するとは…脅威的！というより、人間の業ではないね。そして最後は高山病にかかり、凍死という結末は、う～ん… 最後の人は別に助ける必要がない人でしょ！！ だから死ぬ必要もない！ もう少し三歩を見たかったです。

／T

今さらですが某有名 SNS を少しずつやり始めた。実はずいぶん前に登録だけはしたものの、使い方が良く分からずほったらかしていたのですが…。最近はごくたま～に更新をしたり、たま～に人のページを覗いたりしてます。そうして SNS をしているとひとつだけ悩みが、SNS 上の「友達」って何でしょう？友達申請したり、受けたりする時にすこし考えてしまいます。あまり深く考えずにとりあえず顔見知りだったら「友達」ぐらいでもいいのでしょうかね？

／カタカナ

最近、マダニを介して発症する新種のウィルスのニュースを聞きますよね。マダニにはトラウマ（以前この後記に書いた、主人の肩に頭を突っ込んで足をじたばたしてたマダニの話）があり、以来、沢など好きだった藪を漕ぐことが怖くなったのです。死亡例もでて余計恐怖～。以前は山で怖いイキモノはマムシとヒルが究極の選択だったけど、今はマダニか？あ、スズメバチがやっぱり究極。熊はまあ…。んなこと言ってちゃ山ヤじゃない～？

／とっこ